

石心会グループ

社会医療法人財団 石心会

社会福祉法人 石心福祉会

医療法人社団 東京石心会

医療法人 鶴見会

海燕

うみ

つばめ

石心会 BULLETIN 隔月刊

発行人：石井暎禧

編集人：辻田征男 発行：石心会本部

〒212-0013 川崎市幸区堀川町580番地

ソリッドスクエア東館4階

TEL 044-511-2266 (代) FAX 044-540-1135

<http://www.sekishinkai.or.jp>

キーワードは「変わる事!!」

埼玉石心会病院新築移転に向けた決起集会

石井理事長の基調講演

「新病院・私の構想」

6月11日、土曜日16:00から川越プリンスホテルにおいて「埼玉石心会病院新築移転に向けた決起集会」が行われました。当日は、150人定員の部屋に医師31人を含む138人が結集しました。



講演する石井理事長

会は、初めに石井暎禧理事長の「新病院・私の構想」と題する基調講演から開始されました。

講演の中で石井理事長は、

1. 埼玉石心会病院は、人口70万人を擁する埼玉県西部保健医療圏の中で地域の中心となる病院＝地域中核病院として、地域の医療に責任を持つ立場にあること。従ってその観点から新・埼玉石心会病院の中身を構想する必要があること。

2. 地域中核病院のミッションは、まず、救急医療に責任を持つこと、つまり断らない救急医療を発展・進化させる必要があること。

その上で、地域の急病の典型である脳と心臓の治療においては、地域へのアピールとして各治療センターを名乗り、それにふさわしい内容を持つ必要があること。そ

こでは24時間365日、地域で一番の医療を行う必要があり、全職種からなるチームでこれに当たる。そのための陣容を整える必要がある。

3. 治療センターは内科的治療と外科的治療が融合した形態を持つこと。

4. なによりも、新しい病院を、ただ建物や設備の更新や病床を増やすことにとらえてはいけない。新しい地域環境の中で未来に向かって、地域一番の病院であり続けるために、埼玉石心会病院が転換を図る必要から生まれるものだと認識してほしい。

以上を話されました。

辻田専務理事・事務局長講演

「新病院のミッションと街づくり」

続いて、上記のタイトルで以下の内容の講演が行われました。

1. 講演の冒頭、辻田征男局長は埼玉石心会病院の歴史に触れる中で、病院誕生前々年（1985年）の狭山市内を騒然とさせた石心会病院進出反対運動時の写真を公開し、職員の眼を釘づけにしました。反対運動は、地元医



街宣車による反対運動を説明する辻田専務理事

師会・病院関係者有志によって組織され、右翼街宣車の登場となったものです。右翼街宣車のデモは2か月にわたり続き、埼玉県警機動隊が警戒に当たりました。

そして、病院がオープンするや市民の熱烈な支持を得たこと、2年間執拗に続いた地元既成医療勢力の反対運動は、病院がオープンするや何事もなかったようにウェルカムモードに一変し2年後には医師会加入の運びとなったこと。

これは、当時の狭山市が心臓と脳の本格的な治療をする病院、そして救急車を断らず受け入れる病院が存在しなかったこと。従って狭山市とその周辺は患者が、川越市や都内の病院に流出し空洞化現象が起きていたこと。そのため激烈な反対運動をした地元の医療機関も患者が減らないばかりか重篤な患者を域外でなく狭山病院（埼玉石心会病院の前身）に送ることで地域住民から感謝されたことを示している。

2. しかしながら、病院オープンから30年経った今、新たに地域に医療の空洞化が起きている。これは、現代の地域住民が求めているものと埼玉石心会病院の提供する医療が一部ミスマッチを起こしているからと捉える必要がある。（下図参照）

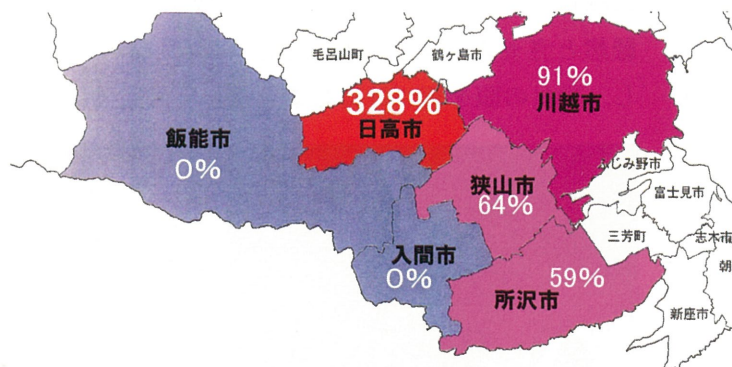
隣接市との競合状況

◎分析方法

- ・対象6市の人口に受療率を乗じた推計患者数（ポテンシャル）に対する、DPCデータに基づく病院別診療実績の割合を算出。これが100%を下回る場合には、実績がポテンシャルを下回り、他市に患者を奪われ、100%を超える場合には、他市より患者が流入しているものと想定した。

◎競合状況

- ・上記方法によると、狭山市は64%と他市に患者が流出している状況。埼玉医科大学を擁する日高市（328%）及び都心部に流出している可能性。
- ・また、所沢市、川越市も100%を下回っており、主に東京方面に患者が流出している可能性。



3. この、ミスマッチを解消するためには、何よりも提供する医療の質をレベルアップしなければならないとしてその仕掛けを、①脳と心臓を中心にした治療センター

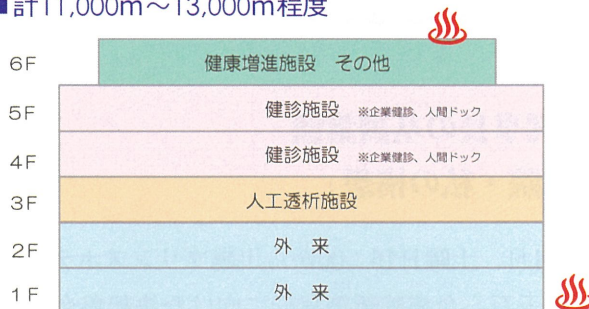
を構築し地域にアピールする。②断らない救急医療を一層強化する。③臨床研修センターを構築し、石心会医療を担う人材を育成する。それらによって少なくとも狭山市内においては、現状の64%の受療率を200%に高める目標を持つべきだと訴えました。

4. 引き続き新築移転計画の一部変更が発表されました。

(仮称) 複合クリニックビル 2nd.CLINIC & MORE

■2021年度オープン予定

■計11,000㎡～13,000㎡程度



その内容は、新病院の近隣に①外来診療、②人工透析治療、③ドック施設、④その他からなる複合クリニックビルを2021年のオープンをめどに建設しようというものです。

その理由の主たるものは、現在外来診療を行っている狭山総合クリニックが、新病院から1.8km離れているというところにあります。このビルの建設に合わせて温泉を掘って市民や職員が利用できる施設を作る構想も発表されました。

5. 最後に、新病院は市民の健康を守る基地であり、それは街づくりのインフラであるが、同時に文化的なものを含め市と協力し街づくりをするという観点が必要であることが指摘されました。今後、高齢者は2040年まで増え続けるが、便利で楽しい街を作らないと若い人たちが寄り付かなくなり、スタッフを確保できない環境になるリスクがあることが指摘されました。

巨樹の会からのエール 桑木副理事長

埼玉石心会病院で5月からオープンした回復期リハビリテーション病棟のためにPT、OTなどの職員15人を派遣して頂いている巨樹の会は、今年4月1日から埼玉県農協の経営していた久喜総合病院（圏央道で埼玉石心会病院から車で40分）を譲り受け、新・久喜総合病院（300床）として運営強化に当たっています。そうした観点



から、桑木晋・巨樹の会副理事長からは新・埼玉石心会病院の治療センターの持つ高機能に期待する旨のご

挨拶を頂きました。巨樹の会とは新・久喜総合病院との連携を通じて埼玉県下の医療に貢献して行く中で、ますますアライアンスの内実を深めて行くことになると思われます。



乾杯の挨拶をする桑木巨樹の会副理事長

埼玉石心会病院の石原医師&山根医師 パリの学会で最新の医療技術を発信



埼玉石心会病院の山根正久・副院長（循環器科）と石原正一郎・副院長（脳神経外科）らが5月、パリで行われた学会でそれぞれ座長を務めました。両医師とも各分野での第一人者として、医療技術発展にむけた活発な議論の場を生み出し、埼玉石心会病院は、「心臓」と「脳血管」双方の血管内治療（カテーテル治療）において世

界トップ水準であることを示しました。

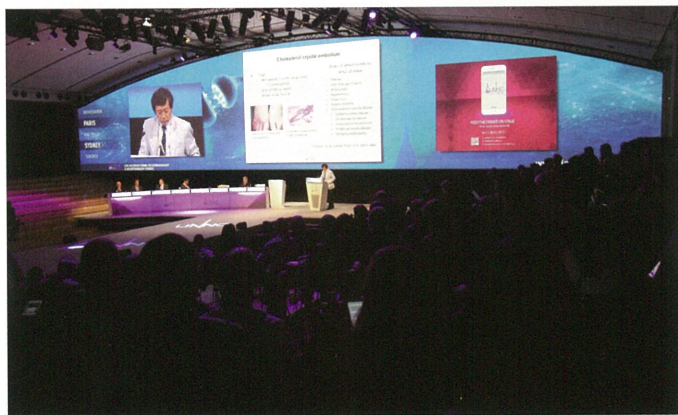
山根、石原医師が座長を務めたのは、『EuroPCR』と『LINNC』で、それぞれの治療分野で最大のシンポジウム。世界各国の医師、医療関係者らが参加し、最新の治療技術やデータの情報を交換、議論する場となっています。

石原医師、世界トップ17名のための基調講演 ハイブリッド手術の権威として信頼集める

石原医師が労を務めた『LINNC』は、5月23～25日、ルーブル美術館の地下にある会場「カールセル・ド・ルーブル」で開かれました。カテーテルを用いた脳内血管治療は、近年急速に発達している分野です。従来の開頭手術とは異なる低侵襲治療として、脳血管のさまざまな疾患の治療に応用されるようになり、現在では脳動脈瘤、動脈硬化性病変、急性期脳梗塞、脳動静脈奇形などの治療が行われています。



『LINNC』は、発展めざましい脳血管内治療について、各国の医師・スタッフらが治療現場のリアルな映像を通して治療法を学び、疑問をその場で解決していくことを目的としています。そのため、ロシア、カナダ、フランス、ブラジル、オーストラリア、中国の6カ国の病院での17例の治療の様子を、学会会場に衛星生中継するという、実践的な形での学会が行われました。



石原医師は、フランス、オーストラリア、ブラジルの3カ国4症例のライブ中継でパネリストを務めたほか、『頸動脈ステント留置術の最新治療』について基調講演を行いました。同学会では17の基調講演が行われましたが、この演者に指名されたことは、脳内血管治療における世界のトップ17名に選ばれたということを意味する大役です。石原医師は、

「頸動脈狭窄症に対しては、これまで内膜剥離術という外科的な手術法がありましたが、最近ではより低侵襲

の治療として『頸動脈ステント留置術』が行われるようになり、デバイスの進化、使用方法、術後管理などの発展と共に治療法がより確立されてきています」

と解説。さらに、

「脳血管内治療は現在、デバイス(医療機器)の日進月歩の進化とともに、治療できる分野を少しずつ広げている段階です。心血管のカテーテル術よりも新しい分野として、日本での症例数も激増している段階。急性期脳梗塞や脳動脈瘤、脳動静脈奇形など難しい症例の治療も可能になっており、進化する治療法を、学会を通して世界に発信していくことが重要です」

と話しました。

開頭手術と脳血管内治療を合わせた ハイブリッド手術を、埼玉から世界へ

実は、石原医師がこのような世界的評価を得ている分野として、開頭手術と脳血管内治療を同時に行う「ハイブリッド手術」があります。2013年にこのハイブリッド手術を同学会にライブ中継・解説したことが世界的に絶賛され、その権威として名を広めました。

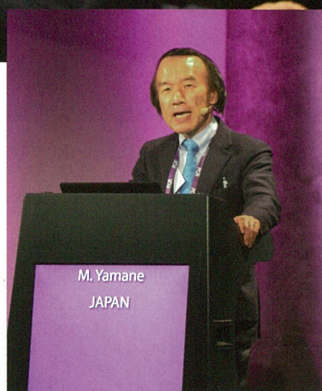
「開頭手術、脳血管内治療どちらか一方の治療法では困難な症例であっても、両者を組み合わせるハイブリッド手術では治療が可能になる場合があります。この方法によりこれまで治療できなかった患者さんを救う事が出来るのです。例えば、大きな動脈瘤が深部にあって開頭手術では手が届きにくい。そんな場合に開頭手術で安全に見える範囲で動脈瘤の間口を外からクリップで狭め、それに続いて今度は血管の中から脳血管内治療でコイルを動脈瘤内に詰める、ということが出来る。これこそが、私達が埼玉から世界に発信させていきたい治療なのです」

石原医師は、2017年開業予定の埼玉石心会・新病院で、世界初となる「最新鋭統合型ハイブリッド手術室」を開発・導入する予定です。世界最高峰の「脳血管手術&治療」を埼玉石心会病院から世界へと発信する、その夢のような日はもう1年後に迫っていることを印象づける『LINNC 2016』でした。

山根医師、CTO 病変の第一人者として 困難な症例を安全に治療する「逆行性」を伝導



山根医師が座長として招待された『EuroPCR 2016』は5月17～20日、パリの国際会議場「パレ・デ・コングレ」で開かれました。115カ国から12,000人の医療関係者が参加し、山根医師は2,000人規模の大会場でのシンポジウムで座長を務めました。



近年、この心カテーテル治療は治療領域が一気に拡大し、この『EuroPCR』でも、冠動脈治療だけでなく、末梢動脈疾患、弁膜症、先天性心疾患など様々な症例についての議論や報告が行われました。心カテーテル治療はすでに成熟期を迎えており、より困難なケースを、どれだけ効率良く、どれだけ安全に、どれだけ高い成功率で行うことができるか、切磋琢磨することが学会の目的となっています。

山根医師は同分野のなかでも、CTO病変(慢性完全閉塞病変)の治療における、世界第一人者の一人です。冠動脈が3か月以上におよび完全に閉塞した病変では、冠動脈造影だけでは血管の状態を完全に把握することが困難なため、ひと工夫したアプローチが必要とされます。山根医師は、日本の加藤修先生が確立した「逆行性アプローチ」という治療法を実践、習得することで、

CTO病変治療の成功率と安全性を高めてきました。

今回は、英国の「ブリストル心臓病院」での2例のCTO病変治療を学会会場にライブ中継。1例はあえて「順行性」という旧来の手法で、もう1例は「逆行性アプローチ」という山根医師らが伝導している新しい手法を用い、解説を行いました。

順行性での治療では、目的の冠動脈そのものへは血流を通せたものの、周辺にある細い血管が圧迫されて塞がれてしまいました。冠動脈が完全閉塞していたために、造影剤を使っても周辺の血管などの状況が完全に把握できていなかったのです。

一方、逆行性を用いた手法では、無理なくカテーテル治療が行われ、学会の時間内に治療が成功。新しいアプローチでの手技が、成功率、安全性、正確性を示す結果となりました。山根医師は、

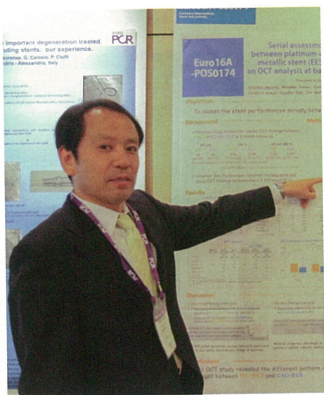
「CTO病変のカテーテル治療に少しでも困難がある場合は、迷わずに逆行性を選ぶことによって、患者の負担も減り、順調な回復も見込めます。また血管造影と同時に、血管内超音波(IVUS)を使うことで、より正確な血管内情報を得ることができ、成功率を高めることができます」

と解説。「逆行性アプローチ」を世界の医師らに伝達することで、心カテーテル治療の質向上へ寄与しました。

荒巻医師、2種のステントの予後について発表 「年間1000件以上の石心会だからできる研究」

またこの『Euro PCR』では、埼玉石心会病院の芝崎太郎医師と荒巻和彦医師も、研究発表者として参加しました。

荒巻医師の発表は、薬剤溶出性ステントに関する比較研究。ステントの素材のうち、プラチナクロムとコバルトクロムの2種類について、1年後、2年後の予後のデータを収集し、比較した成果を発表しました。



薬剤溶出性ステントは、ステントで一度ひろげた血管が再び狭窄してしまう可能性を軽減する「次世代型ステント」です。各医療機器メーカーが新商品を次々と開発し、日本でも複数種類の薬剤溶出性ステントが認可されていることから、どの症例にどのステントを用いるか、という、ステントの種類の使い分けが重要な課題になっています。

荒巻医師は、2種類のステントの2年間におよぶ予後を比較検討することで、それぞれに適切な症例を導き出す研究を行いました。

「複数の症例で、しかも1年、2年と長期にわたって症例データを集めることができたのは、やはり、埼玉石心会病院では毎年1,000件以上のPCIが行われているからこそ。当院のスタッフの努力のお陰で、これだけの研究成果を発表できました」と話していました。

芝崎医師、困難な狭心症患者への 治療成功例を紹介 「血管内超音波による、事前の詳細な計画が重要」



芝崎医師の発表は、非常に困難で稀な狭心症患者に対して心カテーテル治療を成功させた症例についての発表でした。右冠動脈、左冠動脈ともに冠動脈バイパス術をすでに受けており、さらにベントール手術（大動脈弁置換術）を受けている患者が、不安定性狭心症を頻発しているという、非常に治療法の特長が難しい症例です。芝崎医師は、事前に血管内超音波（IVUS）で病状を正確に把握し、治療法やデバイスを熟考しました。

「再び冠動脈バイパス術を行うか、カテーテル治療を行うかの選択があり、さらにカテーテル治療を行うとしても、どのデバイスを用いるかという選択肢がありました。血管内超音波を用いたことで動脈硬化を併発

していないことが事前に分かり、カテーテル治療に踏み切り、薬剤溶出性ではない通常のステントを使う、という選択肢になりました。事前の慎重な計画が、手技の成功に繋がりました」



と芝崎医師は発表。各国のドクターからは、難しい症例の成功に対し、大きな拍手が贈られました。

* * *

埼玉石心会の4名のドクターが、それぞれの分野で活躍した5月のパリ。脳血管&心血管ともに、最先端の治療を埼玉から世界へ発進することで、新病院開設に向けた、力強い一歩を踏み出しました。

（文責：本部業務支援室・野口美恵）

日本政策投資銀行の

「優れた社会的価値資本創出型 M&A」特別賞を受賞

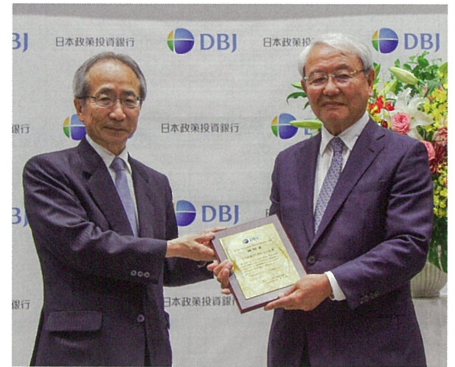
株式会社日本政策投資銀行は、昨年から「優れた社会的価値資本創出型 M&A」を行った企業や団体に大賞と特別賞を授与する制度を設けました。今年は第2回目ですが、社会医療法人財団 石心会が特別賞を受賞しました。

石心会を選んだ理由として富士電機病院を石心会のグループ病院に迎え、さいわい鶴見病院と改称

し高度急性期・救急病院である川崎幸病院のバックアップ病院として位置づけ、断らない医療をより前進させた事などによるものです

5月27日には表彰式が行われ、辻田征男専務理事・事務局長が表彰の盾を受け取りました。

なお、大賞はタイ国・卸発電事業への参画を行った静岡ガスが受賞しました。



柳正憲・日本政策投資銀行代表取締役社長（左）と辻田専務理事

横平、岩田両氏が危険業務従事者として叙勲

職員の横平^{よしたか}好充（本部事務局）、岩田澄男（川崎幸クリニック）のお二人は、今年の危険業務従事者叙勲で瑞宝双光章を叙勲され、皇居宮殿にて天皇陛下からお祝いとねぎらいのお言葉を賜りました。

危険業務従事者叙勲は春秋叙勲とは別に、警察官、自衛官など著しく危険性の高い業務に精励し、

国家または公共に対し積年の功労ある者が受章します。横平さんは警察功労、岩田さんは消防功労での叙勲でした。

瑞宝双光章は日本の勲章の一つで、受章者は勲章を関係大臣から伝達され、勲章を着用して配偶者同伴で天皇陛下に拝謁します。



横平好充さん



岩田澄男さん

熊本地震の被災者に義援金

平成28年4月14日に発生した熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震以降、熊本県・大分県を中心に相次ぎ地震が発生し、大きな被害が出ています。

この災害で被災された方々を支援するため、石心会グループ各法

人から総額で500万円の寄付を行いました。

職員からの義援金は6月末を一応の締め切りとして現在募集中です。

日本赤十字社では義援金は被害状況に応じて按分し、各被災県に

設置された義援金配分委員会を通じて、全額が被災された皆さんに届けられます。

6月10日現在、日本赤十字社に届いた義援金の総額は169億9,594万4,794円になっていると報道されています。

学会発表一覧 (2016.4 ~ 2016.5)

◆川崎幸病院

学会発表

診療部

【国際学会】

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
Junichi Shimamura, Shin Yamamoto, Takuya Fujikawa, Susumu Oshima, Kensuke Ozaki, Reo Kasai, Shigeru Sakurai, Shunichiro Fujioka, Yuki Hirai, Tomohiro Hirokami, Soichiro Hase, Motoshige Yamazaki, Tatsuya Nakagawa and Shiro Sasaguri	川崎大動脈センター	2016.4.1	AORTIC ASIA 2016	Open repair is the gold standard for TAAA	Bangkok	講演
Junichi Shimamura, Shin Yamamoto, Takuya Fujikawa, Susumu Oshima, Kensuke Ozaki, Reo Kasai, Shigeru Sakurai, Shunichiro Fujioka, Yuki Hirai, Tomohiro Hirokami, Soichiro Hase, Motoshige Yamazaki, Tatsuya Nakagawa and Shiro Sasaguri	川崎大動脈センター	2016.4.9	The 24th Annual Meeting of Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS)	Open repair of ruptured descending thoracic aortic aneurysms	Taiwan	一般口演
Takuya Fujikawa, Shin Yamamoto, Susumu Oshima, Reo Kasai, Kensuke Ozaki, Shigeru Sakurai, Junichi Shimamura, Shiro Sasaguri	川崎大動脈センター	2016.4.9	The 24th Annual Meeting of Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS)	Emergent Open Surgery For Juxta-Renal Abdominal Aortic Aneurysm: The Efficacy of Thoracoabdominal Approach	Taiwan	一般口演
Soichiro Hase, Tassei Nakagawa, Sokun Fuwa, Fimie Saito, Motoshige Yamazaki, Jun-ichi Nishimura, Hiroshi Nishimaki	川崎大動脈センター	2016.4.9	The 24th Annual Meeting of Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS)	Usefulness Of Transcatheter Direct Sealing Of The Bleeding Site In The Aneurysmal Sac during Endovascular Treatment	Taiwan	ポスター
Junichi Shimamura, Sumu Oshima, Reo Kasai, Kensuke Ozaki, Shigeru Sakurai, Takuya Fujikawa, Shunichiro Fujioka, Yuuki Hirai, Tomohiro Hirokami, Shiro Sasaguri	川崎大動脈センター	2016.5.11	American Association For Thoracic Surgery 2016	Open Repair of Ruptured Descending Thoracic Aortic Aneurysm	new york	ポスター
Takuya Fujikawa, Junichi Shimamura, Sumu Oshima, Reo Kasai, Kensuke Ozaki, Shigeru Sakurai, Shunichiro Fujioka, Yuuki Hirai, Tomohiro Hirokami, Shiro Sasaguri	川崎大動脈センター	2016.5.12	American Association For Thoracic Surgery 2016	Improved Operative Results of Conventional Total Arch Replacement :Single Center Experience of 935 Cases In Nine Years	new york	一般口演

【全国学会】

太田 竜	外科	2016.4.14	第116回日本外科学会定期学術集会	大腸癌肝転移の Bevacizumab 併用化学療法における形態学的変化 (morphologic response) の評価と意義	大阪	ポスター
成田和広	外科	2016.4.16	第116回日本外科学会定期学術集会	ICV フィルター留置、静脈血栓性感染症の検討	大阪	ポスター

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
網木 学	外科	2016. 5. 21	第 27 回内視鏡外科 フォーラム東北	再発鼠径ヘルニアに対する TAPP 法の工夫	岩手	一般
井上貴博	外科	2016. 5. 21	第 27 回内視鏡外科 フォーラム東北	80 歳以上の胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術に対する検討	岩手	一般
藤川拓也	川崎大動脈セン ター	2016. 4. 14	第 116 回日本外科学会 定期学術総会	慢性大動脈解離に対する Open Surgery の有用性	大阪	パネルディス カッション
長谷聡一郎, 中川達生, 不破相勲, 斉藤文美恵, 山崎元成, 西村潤一	川崎大動脈セン ター	2016. 4. 17	第 72 回日本医学放射 線学会総会学術大会	Percutaneous CT-guided implantation of a Visicoil fiducial marker for stereotactic body radiotherapy of the lung in 24	横浜	一般口演
藤川拓也, 山本 晋, 大島 晋, 尾崎健介, 桜井 茂, 島村淳一, 藤岡俊一郎, 平井雄喜, 広上智宏, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 25	第 44 回日本血管外科 学会学術総会	High Risk 患者に対する Conventional Total Arch Replacement	台場	一般口演
藤川拓也, 山本 晋, 大島 晋, 尾崎健介, 桜井 茂, 島村淳一, 藤岡俊一郎, 平井雄喜, 広上智宏, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 25	第 44 回日本血管外科 学会学術総会	当院で施行された下行大動脈置換術 403 例における手術リス クの検討	台場	シンポジウム
平井雄喜, 山本 晋, 藤川拓也, 大島 晋, 尾崎健介, 桜井 茂, 島村淳一, 藤岡俊一郎, 広上智宏, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 25	第 44 回日本血管外科 学会学術総会	EVAR 後 open conversion に対する当院の術式	台場	ビデオプレゼ ンテーション
大島 晋, 山本 晋, 藤川拓也, 尾崎健介, 桜井 茂, 島村淳一, 藤岡俊一郎, 平井雄喜, 広上智宏, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 26	第 44 回日本血管外科 学会学術総会	胸腹部大動脈瘤に対する open surgery	台場	一般口演
広上智宏, 山本 晋, 藤川拓也, 大島 晋, 尾崎健介, 桜井 茂, 島村淳一, 藤岡俊一郎, 平井雄喜, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 26	第 44 回日本血管外科 学会学術総会	当センターにおける Marfan 症候群患者の遠隔期治療成績	台場	ポスター
櫻井 茂, 山本 晋, 藤川拓也, 大島 晋, 尾崎健介, 島村淳一, 藤岡俊一郎, 平井雄喜, 広上智宏, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 26	第 44 回日本血管外科 学会学術総会	当院における complicated B 型急性大動脈解離に対する治療 戦略	台場	シンポジウム
島村淳一, 山本 晋, 藤川拓也, 大島 晋, 尾崎健介, 桜井 茂, 藤岡俊一郎, 平井雄喜, 広上智宏, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 26	第 44 回日本血管外科 学会学術総会	TEVAR 術後、瘤拡大および破裂に対する Open conversion surgery	台場	ビデオセッショ ン

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
藤岡俊一郎, 山本 晋, 藤川拓也, 大島 晋, 尾崎健介, 広上智宏, 桜井 茂, 島村淳一, 平井雄喜, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 27	第 44 回日本血管外科学会学術総会	大動脈弁閉鎖不全症を伴う急性 A 型大動脈解離に対する治療戦略	台場	パネルディス カッション
尾崎健介, 山本 晋, 藤川拓也, 大島 晋, 広上智宏, 桜井 茂, 藤岡俊一郎, 島村淳一, 平井雄喜, 西江龍太郎, 笹栗志朗	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 27	第 44 回日本血管外科学会学術総会	大動脈全弓部置換において当センターで行っている反回神経保護の工夫	台場	パネルディス カッション
山崎元成, 中川達生, 長谷聡一郎, 山本 晋, 笹栗志朗, 藤川拓也, 大島 晋, 尾崎健介, 島村淳一, 櫻井 茂, 藤岡俊一郎, 平井雄喜, 広上智宏, 光岡明人, 寺崎宏明, 西巻 博	川崎大動脈セン ター	2016. 5. 27	第 44 回日本血管外科学会学術総会	腹部大動脈人工血管置換術後に対する TEVAR の経験	台場	ポスター
関 邦彦, 大友梨恵, 田中さゆり, 早川欽哉, 丹野正隆	病理科	2016. 5. 12-14	第 105 回日本病理学会 総会	診断に苦慮した結節性多発動脈炎 (PAN) の解剖例	仙台	ポスター
丹野正隆	病理科	2016.5.12-14	第 105 回日本病理学会 総会	女性生殖器・卵巣 1	仙台	座長
岡部直太, 吉池信哉, 大窪泰弘, 下山田博明, 寺戸雄一, 藤原正親, 望月 真, 西ヶ谷順子, 大倉康男, 菅間 博	病理科	2016. 5. 12-14	第 105 回日本病理学会 総会	慢性糸球体腎炎の閉経後女性に発生した子宮体部の脂肪平滑筋腫の 1 例	仙台	ポスター
氣賀澤秀明, 寺戸雄一, 千葉知宏, 岡部直太, 吉池信哉, 藤原正親, 北村 修, 菅間 博	病理科	2016. 5. 12-14	第 105 回日本病理学会 総会	腎癌に転移性乳腺小葉癌が混在した 1 例	仙台	ポスター
有益 優, 寺戸雄一, 藤原正親, 千葉知宏, 石井 順, 岡部直太, 菅間 博	病理科	2016. 5. 12-14	第 105 回日本病理学会 総会	ALT がん細胞における巨大テロメア核体の形成機序	仙台	ポスター
寺戸雄一	病理科	2016.5.12-14	第 105 回日本病理学会 総会	卵巣癌 ～形態と発癌メカニズム～	仙台	座長
高山 渉	麻酔科	2016.5.26-28	日本麻酔科学会 第 63 回学術集会	時間外手術の年内変動とその対策 -24 時間 365 日 No Refusal Policy と現場のすり合わせ -	福岡	優秀演題
鎌田高彰	麻酔科	2016.5.26-28	日本麻酔科学会 第 64 回学術集会	胸部下行大動脈手術におけるヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド (hANP) 投与による急性腎障害 (AKI) の予防—無作為比較試験—	福岡	最優秀演題
梶谷美砂	麻酔科	2016.5.26-28	日本麻酔科学会 第 65 回学術集会	胸腹部大動脈瘤手術における AKI の発生頻度とその関連因子の検討	福岡	ポスター
日野真愛	麻酔科	2016.5.26-28	日本麻酔科学会 第 66 回学術集会	当院の胸腹部大動脈瘤手術における術後対麻痺発生予測因子の検討	福岡	ポスター
迫田厚志	麻酔科	2016.5.26-28	日本麻酔科学会 第 67 回学術集会	人工心肺 (CPB) 中の低酸素症の検出とその管理—Goal-directed Perfusion (GDP) は可能か?	福岡	ポスター
迫田厚志	麻酔科	2016.5.26-28	日本麻酔科学会 第 67 回学術集会	人工心肺離脱時の心拍出量を予測する術前検査指標および術中血行動態指標についての検討	福岡	ポスター

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
芝田紫野	放射線治療科	2016.5.27	第25回日本定位放射線治療学会	脾頭部癌術後再発に対して体幹部固定シェル使用後に仰臥位低血圧症候群と仮性脾嚢胞を来した1例	京都	口演

【地方学会】

中川達生	川崎大動脈センター	2016.5.15	第三回救急・外傷IVR症例検討会	脾損傷に伴う遅発性脾動脈破裂にて出血性ショックとなったIVR症例	京都	一般口演
柏葉 裕	内科・腎臓内科	2016.5.14	第623回 日本内科学会 関東地方会	パルボウイルスB19感染症により著明な溢水症状を呈した1例	東京	口演
田中詩織	内科・腎臓内科	2016.5.14	第91回神奈川腎研究会総会・研究集会	中央卸売市場における感染が疑われたレプトスピラ症の兄弟例	横浜	口演

コメディカル部

長澤洋一	CE科	2016.4.23	第23回 日本体外循環技術医学会 関東甲信越地方会大会	川崎幸病院の脳分離体外循環管理について	栃木	口演
小野寺勝浩	CE科	2016.4.23	第23回 日本体外循環技術医学会 関東甲信越地方会大会	上行大動脈送血カニューレを用いた順行性冠灌流の経験	栃木	口演
長澤洋一	CE科	2016.5.16	第26回日本臨床工学会	自作型機器管理システムにおける策定表作成機能の有効性	京都府	口演
八馬拓也	CE科	2016.5.16	第26回日本臨床工学会	胸腹部大動脈瘤手術における補助循環中の除水回路使用についての検討	京都府	口演
岡本弥織	CE科	2016.5.16	第26回日本臨床工学会	医療用ジェルの経過時間による電気抵抗変化の検討	京都府	口演
手塚純一	リハビリテーション科	2016.05.27-29	第51回日本理学療法学会大会	急性期病院内科系病棟におけるADL維持向上等体制加算と疾患別リハビリテーション料の診療報酬点数比較	札幌	ポスター
伊藤瑞枝	栄養科	2016.5.28	第8回日本静脈経腸栄養学会首都圏支部会学術集会	胆汁還元療法を行った長期胆汁外瘻症例	東京	口演
久米直子	栄養科	2016.5.28	第8回日本静脈経腸栄養学会首都圏支部会学術集会	心臓血管外科手術後の経腸栄養剤使用時における下痢の要因	東京	口演
伊藤さおり	放射線治療品質管理室	2016.4.14-17	日本医学物理学会	Transference of IMRT planning data to the different site: from 10mm-width-MLC to 5mm-width-MLC	横浜	口演
林口 登	放射線科	2016.5.26-28	日本IVR学会学術総会	疑似CT下穿刺用補助具の作成	名古屋	ポスター
林口 登	放射線科	2016.5.26-28	日本IVR学会学術総会	実物大血管モデル作成のための基礎的検討	名古屋	ポスター

論文・教科書執筆等

診療部

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
山崎継敬	循環器内科	Therapeutic Research 2016.5.vol.37 no.5(2016年5月20日発行)	A case of focal atrial tachycardia originating from the left atrial appendage complicated with atrial fibrillation	書籍
尾崎健介・山本晋	川崎大動脈センター	大動脈解離 診断と治療のStandard	手術治療のタイミングと手術術式(胸腹部置換を中心に)	書籍
田中亜由美・山本晋	川崎大動脈センター	大動脈解離 診断と治療のStandard	大動脈センターの設立と発展について～大動脈チームの形成の有用性と今後の課題	書籍
梶谷美砂	麻酔科	LISA Vol.23 No.2, 98-102	◆薬物誤投与や過量投与の実態と予防策 安全な手術室環境を構築するための取り組み	雑誌

看護部

片桐嘉奈子 (執筆・首都大学東京 戸村ひかり共著)	看護部	ナーシングキャンパスVol.4 Nno.7 2016.7 p12～p41 株式会社学研メディカル秀潤社	特集1 学んでおきたい退院支援の視点 患者さんが日常生活に戻るということ	総説
佐藤久美子 (特集作成協力)	看護部	ナーシングキャンパスVol.4 Nno.7 2016.7 p12～p41 株式会社学研メディカル秀潤社	同上	総説
川村未樹 (事例作成協力)	看護部	ナーシングキャンパスVol.4 Nno.7 2016.7 p12～p41 株式会社学研メディカル秀潤社	同上	総説

コメディカル部

久米直子 (事例作成協力)	栄養科	ナーシングキャンパスVol.4 Nno.7 2016.7 p12～p41 株式会社学研メディカル秀潤社	特集1 学んでおきたい退院支援の視点 患者さんが日常生活に戻るということ	総説
------------------	-----	---	--------------------------------------	----

◆川崎クリニック

学会発表

看護部

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
由井渚子	看護部	2016.5.27-28	第8回日本下肢救済・足病学会学術集会	重症下肢虚血で下肢切断に至った患者、家族の支援を行った一事例	虎ノ門	口演

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
渡邊美加	透析	2016.5.27-28	第8回日本下肢救済・足病学会学術集会	重症下肢虚血の治療受け入れが困難だった高齢透析患者の一事例	虎ノ門	口演

◆埼玉石心会病院

学会発表

診療部

【国際学会】

山根正久	循環器内科	2016.4.1	CTO-PCI Riga/Latvia	New development of Retrograde Approach in CTO-PCI	ラトビア	講演・ライブ
山根正久	循環器内科	2016.4.14	CTO Summit 2016	New devices and strategies in CTO PCI from Japan	イタリア	講演・ライブ
山根正久	循環器内科	2016.4.18	CTO PCI Belgrade/Serbia	Current Insight of Retrograde CTO PCI in Coronary Revascularization	セルビア	講演・ライブ
山根正久	循環器内科	2016.4.21	RCA CTO AKH Hospital	Retrograde CTO PCI experience in Japan AKH Hospital	オーストリア	講演・ライブ
山根正久	循環器内科	2016.4.21	RCA CTO AKH Hospital	Current Guide wires and wiring in CTO intervention AKH Hospital	オーストリア	講演・ライブ
山根正久	循環器内科	2016.4.22	RCA CTO AKH Hospital	A GREAT CASE AKH Hospital	オーストリア	講演
山根正久	循環器内科	2016.5.17	PCR 2016	CTO interventions-difficult anatomy/epicardial approach	フランス	座長・講演
山根正久	循環器内科	2016.5.19	PCR 2016	Developing basic skills in antegrade CTO intervention PCR 2016	フランス	座長・講演
山根正久	循環器内科	2016.5.31	CTO PCI AHO meeting	Contemporary Reverse CART in CTO PCI AHO meeting	スペイン	講演・ライブ
荒巻和彦	循環器内科	2016.5.17-20	Euro PCR 2016	Serial assessment of vascular responses between platinum-chromium everolimus-eluting metallic stent(EES)and cobalt-chromium EES:an OCT analysis at baseline,one-and two-year follow-up	フランス	一般・口演
芝崎太郎	循環器内科	2016.5.17-20	Euro PCR 2016	A recurrent case of unstable angina at site of the synthetic graft after Bentall operation.	フランス	一般・口演
角 優介	整形外科	2016.5.18-20	ICES 2016	Reverse arthroplasty for chronic anterior shoulder subluxation following arthroscopic Bankart repair -a case report-	韓国	一般・口演

【全国学会】

佐々木亨	整形外科	2016.4.14-16	第45回日本脊椎椎病学会学術集会	腰椎化膿性椎間関節炎の治療経験	千葉	一般・口演
相田久美	病理診断科	2016.5.13	第105回日本病理学会総会	剖検にて診断された癌性髄膜炎の2症例	仙台	一般・口演
山崎美保子	放射線科	2016.5.13	第316回BODY-C T研究会	心窩部痛を主訴に受診した79歳男性	東京	一般・口演
根田 保	糖尿病内科	2016.5.19-20	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	2型糖尿病患者に対するトホグリフロジン追加投与の有効性の検討	京都	一般・口演
山田宗明	心臓血管外科	2016.5.25-26	第44回日本血管外科学会学術総会	完全内臓逆位の急性A型大動脈解離に対し、上行弓部大動脈置換術を施行した一例	東京	一般・口演
児玉ひとみ	乳腺内分分泌科	2016.5.26-27	第28回日本内分分泌科学会総会	18歳の甲状腺未分化癌の治療経験	横浜	一般・口演
中村 靖	乳腺内分分泌科	2016.5.26-27	第28回日本内分分泌科学会総会	腫瘍摘出後に強い消化器症状が消失した甲状腺髄様癌の1例	横浜	一般・口演

【地方学会】

望月温子	神経内科	2016.5.14	第623回日本内科学会関東地方会	単純ヘルペス抗体価の上昇を伴った腰仙髄部の急性脊髄炎の1例	東京	一般・口演
水野寿一	消化器内科	2016.5.21	日本消化器病学会関東支部第339回例会	胆嚢動脈分枝仮性動脈瘤破裂を伴った急性膵炎の一例	東京	一般・口演

コメディカル部

横山恭子	栄養室	2016.5.19	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病透析予防指導(かたくり外来)における栄養士の役割と教育効果	京都	ポスター
森田輝明	生理検査室	2016.4.22-24	第27回日本心エコー図学会学術集会	非弁膜症性心房細動で左房内球状浮遊血栓を認めた脳梗塞患者の一例	大阪	ポスター
邨井優大	放射線室	2016.5.14	関東甲信越診療放射線技師学術大会	整形外科用計測ソフトウェアの精度評価の検討	大宮	口演
岡田良祐	放射線室	2016.5.14	関東甲信越診療放射線技師学術大会	4cm Loop coil使用時における手関節撮像条件の検討	大宮	口演
坂口功亮	放射線室	2016.5.14	関東甲信越診療放射線技師学術大会	4cm Loop coil使用時におけるPrescan Normalize Filterの基礎的検討	大宮	口演

論文・教科書執筆等

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
元 志宏	腎臓内科	Internalmedicine 2016;55(10):1327-9	Infected Aneurysm after Endoscopic Submucosal Dissection.	雑誌

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
横田晴美	救命救急外来	主任看護師 2016 5・6月号	リレー連載 第2回 「見たい・知りたい主任会」 他施設の運営・成果・部署や委員会との連携	雑誌

◆さやま総合クリニック

学会発表

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
小野田教高	内科	2016.5.27-29	第 89 回日本超音波医学会学術集会	甲状腺結節における Real-time Tissue Elastography を用いた組織弾性評価の有用性	京都	一般・口演

論文・教科書執筆等

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
小野田教高	内科	内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第4版	画像診断 甲状腺・副甲状腺	書籍

◆さやま腎クリニック

学会発表

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
演者：元 志宏 座長：池田直史	腎臓内科 人工透析内科	2016.4.21	埼玉西部 利尿薬セミナー	ダイアート錠の使用経験	埼玉	講演
池田直史	人工透析内科	2016.5.28	日経メディカル座談会	サムスカ錠の効能追加（常染色体優性多発性嚢胞腎）から2年を迎えて	埼玉	座談会

論文・教科書執筆等

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
池田直史	人工透析内科	BSジャパン「教えて!ドクター 家族の健康」(提供:第一三共)ゲスト出演	第165回 健康診断・結果の見方～血圧編～	テレビ番組
池田直史	人工透析内科	ラジオ日本(1422kHz)「健康知りたい話」ゲスト出演	慢性腎臓病(CKD)について疾患の基礎から治療方法について	ラジオ番組
池田直史	人工透析内科	ラジオ日本(1422kHz)『21世紀の医療と介護をみつめて』メインパーソナリティー	毎週金曜日 AM5:10～5:20 放送	ラジオ番組

◆新緑脳神経外科

学会発表

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
井上光広	横浜サイバーナイフセンター	2016.4.29 - 5.3	ESTRO Conferences 35	Evaluation of the clinical accuracy of the robotic respiratory system	トリノ	ポスター

論文・教科書執筆等

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
岩渕学緒	放射線治療科	「現代医学」誌 63 巻 2 号	放射線治療最近のトピックス サイバーナイフ	愛知県医師会雑誌
岩渕学緒	放射線治療科	サイバーナイフ臨床指針 頭蓋内腫瘍 サイバーナイフ研究会編	転移性脳腫瘍	臨床指針
菊池千絵	放射線科	日本放射線技術学会誌 第 72 巻 4 号	Chemical shift imaging 法の radio frequency 均一性に対する adiabatic pulse と B1 shim による効果の検討	査読制度のある全国論文

◆老健わかば他

論文・教科書執筆等

窪田 惺	老健わかば	メディカ出版	新人ナースのための塗って覚えて理解する!はじめての脳の神経・血管解剖	書籍
川野和也	訪問看護ステーション わかば	平成28年度地域リハビリテーション専門人材教育研修	第5章 生活の再構築を進めるために気に留めること～実際に支援の例を交えて～ 東京都福祉保健局	テキスト